

2015年
6月8日
月曜日

豊原 法彦 教授 (計量経済学)

「JIS規格」

「進捗」の「捗」という字を皆さんはどのように書かれるでしょうか。「手偏に歩」と学んだかもしれませんが、右の字をよく見てください。傍の下の部分が「少」ではなく

右側の点がないのに気が付かれたでしょうか。実は「歩」という文字は点のない字がオリジナルで漢和辞典によりますと歩のように上に「止」を、その下に「止」を左右ひっくり返したような文字が書かれており、足跡をあらわしているそうです。そして楷書体になる段階で「歩」になっていったと考えられています。ところが「歩」に手偏が付いた文字「歩」は1978年のJIS (日本工業規格) に旁が「歩」と定められて以来2004年までそのままになっていました。お手持ちのパソコンにあるフォントをみると、「歩」の下が「少」になっているかもしれません。また

パソコン上の文字はJISとして決まっております、文化庁や文部科学省ではないところも興味深いところです。

同様のことが祈祷の「禱」の字にも当てはまり、「寿」は「壽」の略字としてJIS第1水準に登録されていますが、それに示偏が付いた文字である「禱」もいつのまにか略字が主たるものとして登録されています。つまり少し古いパソコンをお使いの方が「祈禱」と書いたメールを送ったとしても受け手のパソコンの環境によっては「祈禱」になってしまうこともありえます。

規格ということで話題を展開します。皆さんはお手元にスマホをお持ちの方も多いと思いますが、電話番号をプッシュするときと電卓で計算するときでは数字の並びが違います。前者の画

面では左上隅から右に向かって1, 2, 3となっており、後者は7, 8, 9となっており、前者は国際電気通信連合、後者は国際標準化機構に基づいて決定されています。ちなみに日本で前者を担当するのは総務省 (旧郵政省)、後者は経済産業省 (旧通商産業省) です。もちろん各々便利になるように規格の統一を目指してきたのですが、いったん定まってしまうと変更するのが難しく、今に至っております。

海外旅行をされた方の中には、あちらでパソコンなどを充電しようとするコンセントや電圧が違って困った最悪の場合には機械が壊れてしまったといった経験をお持ちの方もおられるかもしれません。ところがここ20年ほどで広まったインターネットの世界はそのようなことは全

くなく、LANケーブルの接続端子はRJ45という規格に従っており、世界共通です。このように新しい規格はグローバルに決定されるのでこれまでよりも困難は少ないのかもしれませんが、もちろんUSBのように次から次へと規格が生まれる (進化する?) もあります。

最後に。マタイによる福音書にありますようにヘロデ王の命を受けた東方の三博士が母マリヤのそばにいる幼な子に会った際にはフェイストゥーフェイスで情報を伝達できませんでしたが、ICT社会では情報の規格化が必須です。同じものを基準にすることなしには想定された結果が得られないということを認識して、情報化社会を楽しんでください。